

## 2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 宮城県富谷高等学校 ] 担当教諭名 [ 八島 美央 ] ( ECC国際部 13名 )

相手国・地域 [ サウジアラビア ]

海外学校名 [ International Programs School ] 担当教諭名 [ Saira Muhammad ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
		部活動	ECC国際部

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	<p>SDG12 つくる責任つかう責任 持続可能な世界の実現のために、サウジアラビアと私たちが共通のテーマとして据えたのは、「SDG12 つくる責任つかう責任」です。私達が協同で研究を進めていく中で、「製品を消費する行動を変えることが世界を変えることにつながる」ことをテーマに決めました。</p>
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>壁画で伝えたいメッセージは3つです。1つ目は「責任を持って製造された製品」を使うこと、2つ目は「賢い消費者」になること、そして3つ目はこれを実現するために私たちの国や地域が努力をしていることです。これらを発信するために壁画に描いたのは以下です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの消費行動を変えることで世界を良い方向に変えていくことができることを象徴するために、SDG12の矢印マークを描きました。</li> <li>・矢印の外側に、SDGsが達成されない荒廃した世界を描きました。食物を捨てている人がいる一方で、空腹な人もいる状態、海にプラスチックの袋やゴミが捨てられている状態、木々が切り倒されて切り株だけの山の状態、工場などから煙などが排出されて大気が汚れている状態です。</li> <li>・矢印の内側に、現在の問題の実践とそれによって残すことが出来る自然や文化を描きました。富谷高校が描いたのは理想的で美しい日本の四季です。春として、桜の木と花の周りを舞うチョウチョたち、夏として、青い空と青々としげる山々の木々のある自然、秋として、紅葉で色が変わった木と木の実や穀物、冬として、トナカイ、雪だるま、かまくらを描きました。</li> <li>・矢印の内側に、両国を象徴するものを描きました。富谷高校が描いたのは、日本地図、富士山、紅白の格子模様、竹、城、羽ばたく鶴です。鶴は折り紙から平和に発想を飛ばし、現在の世界でも戦時下にあるウクライナなどへのメッセージも込めています。SDG12の達成のためには、私達がユネスコの理念である「心の中に平和の砦を築いて」頑張らなくてはならないという思いを込めました。</li> </ul>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>・昨年度の課題は、コロナ禍で活動自粛がかかった場合の活動の進め方であった。これについては、コロナ禍の昨年度でのアートマイルを経験した2年生たちが、1年間の活動の流れのイメージを持ってプロジェクトを先導してくれたので、「自分たちがその時に出来ることを自分たちで考えて動く」ことが出来るようになっていた。これが一番大きな成果である。</p>	<p>・時差のある国とのZoom会議は頻繁に実施できないので、日時を厳密に指定して行った。そのために1回のZoom会議の時間を十分確保したいのでZoomアカウントを取得するのか、費用が捻出できるのか、などの話題があがった。また、マッチングされた国が遠かったり国際郵便が使えなかったりした場合の郵送費などの面で課題が残った。</p>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>・コロナ禍での生活が日常となった生徒たちにとって、フォーラム中心でのやりとりに実感が持てない時もあるようであった。しかし、Zoom会議を経験して「相手国のみんなが友好的で温かい気持ちになった」、壁画とともにお互いのメッセージカードの現物をやり取りして「本当に交流していると実感した」という感想があった。また、当初は「文化が違いすぎて関わり方が難しい」という意見もあったが、「Zoom会議で色々なアイデアを聞いて、新鮮な気持ちと異文化を分かり合うことの良さを改めて感じた」「一生懸命にプロジェクトに取り組む姿勢が、やっぱり同じ高校生だと思った」という感想も生まれた。想像上ではなく、活動の中で実感をしたことで、生徒たちの『気づき』があった。</p>	<p>・相手国とのプロジェクトは、各段階において協議と確認を何度もしながら進めていたので、壁画制作の頃に進行に遅れが出た。そのために、生徒たちの制作時間が大幅に減ってしまったので、教師としては焦りや不安が大きくなってしまった。しかし、生徒たちはその状況をとてもポジティブに捉えて時間が無いからこそどのように進めていくか、工夫しながら楽しく活動を続けてくれた。その様子に、教師として多くを学んだ。また、生徒が記入した振り返りコメントの中に、「SDGsのことを世界の人と一緒に考えたり課題解決を行ったりして、これからの未来が楽しみだと思った」というものがあった。これらのことは、私自身にも『気づき』になった。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 8月	<p>・本校メンバーの集合写真、個人写真、ビデオを作成してフォーラムに載せ、紹介とした。</p> <p>・「富谷高校生の学校生活」をパワーポイントにまとめ、フォーラムに載せた。</p> <p>・言語、衣装、民族、自然、著名人などを、日本の比較文化的な観点で調べてパワーポイントにまとめ、メンバーで共有した。</p>	<p>・毎年のことではあるが、相手国からの最初のビデオメッセージが届いた時に、このプロジェクトの中で一番の反応があった。相手の顔を見ることで、プロジェクト開始の実感が本格的にわくようであった。「これからの交流が楽しみ」「サウジアラビアってどんな国なのかな」「国旗がすごいね」「文字が右からか～」など、という素朴ながらも楽しそうな様子であった。</p>	部活動 10
共有 相手と意見交換	8月 ～ 11月	<p>・パートナー校と「SDG12 つくる責任 つかう責任」を共通テーマに決定。</p> <p>・テーマを深めるために研究すべき内容は何かを考えた。</p> <p>・①「SDG12が達成されない場合の弊害」、②「達成のために取り組む地元や日本の企業や団体」、③「達成のために取り組む世界の企業や団体」などを調べてグループに分けて研究した。</p>	<p>・テーマについては、昨年と一昨年で取り組んだ海の環境に関連するものを除くものを希望した。その中で、相手校からSDG12の希望があり、本校生徒たちも関心を持って学習に取り組んだ。</p> <p>・SDG12をどのように考察するかについては、左記の「3つの観点で調べよう」という声があがった。</p>	部活動 15

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
共有 相手と意見交換	8月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎にパワーポイントで発表し合うことで共有した。</li> <li>・研究とそこから学んだことなどをパワーポイントにまとめて相手国と共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったよりも、多岐にわたる企業や団体がこの問題に取り組んでいることを知り、「自分も商品を買うならこれが良い」「買ったならずっと使い続けられるものを買おう」「賢い消費行動をしよう」などの意見が出た。</li> </ul>	部活動 15
融合 メッセージ作成	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ学習を進めていく中で、学んだこと、感じたこと、描きたいことを、Zoom会議でそれぞれ出し合っで共有した。</li> <li>・本校からは「SDG12のロゴをモチーフに」と「達成された後の世界で守り続けたい自国の象徴を描きたい」ことを伝え、相手校からは「賢い消費行動」と「現在の悪影響」を描きたいということで、合意をした。</li> <li>・本校で海外の難民の子どもたちのために服を回収して送付する取り組みの様子をフォーラムに載せた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を終えて、自分達が学んだことをお互いに発表したことで、色々な気づきがあった。その中でSDG12のロゴを使いたいということが自然発生的に出てきて全員が同意をした。</li> <li>・Zoom会議には全員が緊張して臨んだ。何をどのように話すのか、何度も確認をしていた様子が印象的であった。実際に会議が始まると、相手国のメンバーたちの笑顔を見て、緊張が和らぎ、生徒達も笑顔で返すことが出来ていた。会議終了時に手を振る時には名残惜しそうであった。</li> </ul>	部活動 10
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画の構図や描くものについて話し合った。壁画全体にSDG12のロゴをモチーフにして左右に分けることにした。①左側は本校、右側は相手国が担当すること、②ロゴ矢印の上には賢い消費者としての行動を描くこと、外側には現在の悪影響を描くこと、内側にはお互いの国の象徴的なものを描くこと、の3点を大まかに決めた。</li> <li>・構図の区切り方やデザインについて、細かい部分を相手国に提案しつつ、また提案を受けて協議した。</li> <li>・相手国が制作を始めた頃に、応援メッセージ動画を作成して送った。</li> <li>・トルコ、シリア地震のために募金活動をしたことをフォーラムに載せた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国と絵や構図について、慎重に協議しながら進めていたので、壁画制作になかなか入れなかった。担当教員としては焦りがあり、事務局に何度も相談をした。絵を描く段階に入ったところでは、制作日数がほとんど無かったが、生徒たちはとてもポジティブな反応で大変驚いた。「時間ないね～。お昼休みもやる?」「グループに分かれて、壁画もパートに分けて描く方がうまく進むよね?」「それぞれのパートに描くものはグループ毎に考えてきて、LINEで意見出そう」などと、時間が無い中で工夫しようという姿が見られた。楽しんで制作している様子を写真に撮ってフォーラムに載せることが出来ていた。</li> </ul>	部活動 15
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国からの作品の返送を受け、本校メンバー内での鑑賞会と振り返りをした。</li> <li>・校内の生徒・職員、また来校者に鑑賞していただくために、昇降口に壁画を展示した。また、作品の詳細説明を作成して一緒に展示した。</li> <li>・プロジェクトの報告として、校内ニュースレターに概要をまとめて、全校生徒に配布をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の定期考査による部活動停止期間に作品が返送されたが、生徒たちに開封させたかったために数日間開封を待った。期間が明けたが、放課後の部活動時間までは待てずに、昼休みに集合して生徒たちが開封した。完成した壁画を見て喜び、また相手国からのメッセージカードに感激しながら「やって良かったね」という声が聞こえた。</li> </ul>	部活動 4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	・相手国と自分達の国について、様々なテーマに分けて調べてパワーポイントにもまとめて発表することで、文化比較を行った。そのため、この項目についての生徒たちの実感と自己評価も高かった。
主体的に考え行動する力	5	・SDG12に関することをたくさん調べて発表をし、そこから絵に込めるべきメッセージを何にするのか、また、題材は何にするのかなど、よく考えていた。また、物理的な時間が無かった時にも自分たちで工夫をして活動していた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	・テーマ学習を経て、SDG12が達成されない場合どんなことが起こるのかなどを考え始めてはいたが、深い部分までは考えきれていないように見受けられた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	・Zoom会議を1つの目標として、それに向けて相手国についてよく知ろうと努力をしていた。また、会議でパートナーたちの人柄を実感した上で、相手国が絵に込めて伝えたいであろうことを想像しながらプロジェクトを進めていた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	・テーマ学習や研究、またZoom会議を経て、自分たちの伝えたい想いをしっかりと持つことができた。何を描くとそれらが伝わるのかもよく考えられたので、壁画に伝えたいメッセージを込められた。